第四十二号

う啼き声がして目を向けると、白と黒の

ちがう方から、「ツツピツツピ」とい

いた。

シジュウカラが枝から枝へと飛び渡った。

(さえき かずみ

作家・仙台文学館館長)

紋に見立てて、〝紋付き鳥〟とも呼ぶ鳥だ。

い描く。黒い翼の中央にある白斑を袴の

Sendai Literature Museum

News

するような動作を繰り返している様を想 尾を細かく振っては頭を下げてお辞儀を 静かで、かわりに野鳥の声がよくひびく。 遠くまで見通すことができる。 てている。姿は見えないが、 カッ」と嘴を鳴らしているような音も立 落葉樹が葉を落としているので、園内を かった。冬の林は、空気が澄んでいるし、 た公園のベンチに一日中座って厭きな い啼き声が、かすかに聞こえる。「カッ た。高校生の頃には、雑木林に設けられ 冬の雑木林は好きだ。昔から好きだっ ·ヒッヒッヒッ」ジョウビタキらし 啼きながら 人の声が

もしれない

まざまなものから見返されているのか こちらが探っているように、自分もさ 今度は「ギィーッ」と扉がきしむよう と生き物の気配が起こる。シー、静かに。 ような冷気が心地よい。藪でガサゴソッ を叩く音がする。コゲラだろう。 な声がしたかと思うと、コンコンと木 を外し、深呼吸する。ペパーミントの 人がいないことを確認して、 マスク

ている。

詰められた地面を歩くと、ふかふかとし

て足の裏がよろこぶ。日陰には雪が残っ

かまつの道、を歩いた。松の枯葉が敷き

エッセイ講座に出るために、冬の『あ

想わせる懐かしい感覚にいざなう。 違うときに、無言でお辞儀をし合いなが 曲がり角に人影をみとめて、 柔らかな木漏れ日は、そんな未生以前を ら、どうぞご無事で、と心の中でつぶや こちらに気付き、 マスクを着け直す。近付いてきた男女も、 しばらくそうしていると、向こうの 冬の林にあまねく降りそそがれている (自分は、なぜここにいるんだろう?) 同じ動作をする。すれ おもむろに

あかまつの道を抜けて

エッセイ

第 4 回 「冬の 雑木林」 佐伯一麦

CONTENTS

エッセイ 「あかまつの道を抜けて」 佐伯一麦 ……1 「私の一冊」 佐藤厚志 ……2 「月にまつわるエッセイ」入賞作品決定 ……4 特別展「椎名誠旅する文学館 in 仙台 2022」……7



写真: 佐々木降二

文学館日誌 ……8

シリーズ「私の一冊」 第 36 回

する。

けでもわくわく

点で庭を歩くだ

佐藤厚志

フ イ IJ ム パ は真夜 ア 中 ス の 庭 で

の頃、 が予想外の衝撃だった。 密の花園』を読んでいた私はどうせ似 薦められるままに『宝島』や『十五少 たような話だろうと高をくくっていた ないほどのおもしろさを味わったのが りつかれた。その中でも生涯忘れられ 年漂流記』に出会い、小説の魅力にと 新たな鉱脈が開けた。学校の図書室で 『トムは真夜中の庭で』である。『秘 映画が一番の娯楽であった中学生 友人が本を薦めてくれたことで

宅で育ち、 庭のイチイやもみの木、ハシバミの切 室、果樹園、牧場。とにかくトムの視 径や日時計のある小径、レンガ塀、 り株、植木をアーチ状に切り抜いた小 然描写として存分に盛り込まれている。 の作家で、 作者はフィリパ・ピアスという英国 幼い時に広い庭園を持つ邸 その記憶が作品に美しい自

> ティの交流に、移ろう季節や時間が重 間はずれにされるハティが心を通わせ 度をとってしまうトムと、 ねられ、物語は重層的に奥行きを帯び ていく。そんなみずみずしいトムとハ でついおじさんおばさんに反抗的な態 てもらえない。外で遊べない状況の中、 からどんな本と出会えるだろうと想像 る。この作品は深く胸に刻まれ、これ られた少女ハティに出会う。隔離中 そこでトムはみなしごで親戚に引き取 ある夜アパートの裏で、あるはずのな いヴィクトリア朝時代の庭に迷い込む。 大聖堂の尖塔にももちろん登らせ いとこに仲

を前に指をくわえているという具合 た。本を読む暇などなく、文学の鉱脈 いう生活で、さらに受験勉強も加わっ

> だった。それでもどうにか小説に触れ ようと、授業中にカフカやジュール

ある時、 ず生きていてよいと思える場所がある 居場所を見つけづらいこの世にも、 会うと、どこにもなじめない自分を重 が当たり前でない。仲間はずれのもの、 出た『トムは真夜中の庭で』に再び出 負ってキャンパスをうろうろしていた。 えのない大切な本だ。 の庭で』も私にとってそういうかけが ような気がしてくる。『トムは真夜中 ね、救いになった。 の中心にあった。そんな登場人物に出 つまはじきもの、 会った。文学の中では当たり前のこと 苦労し、いつもひとりでリュックを背 大学でもやはり居場所を見つけるのに 高校卒業後、どうにか滑り込んだ 岩波少年文庫から新版として やっかいものが物語 い本と出会うと、 必

所はなかった。持病のアトピーのせい 折、所属していたバレーボール部では ヴェルヌを読んで教員に頭を叩かれた もので、本だけが癒やしになった。 もあって居場所のない高校生活は辛い に入ったが、仕方なく来たものに居場 所属が義務だったので仕方なく美術部 ように言い渡された。どこかの部への 反抗的な態度を理由に顧問からやめる りした。当然成績は悪かった。そんな

分ひとりだけの体験のように感じてい が誰にも打ち明けられずに抱えている 的に賛否両論あったが、アトピー患者 向かうのだが、そこでトムとハティが がら心を解き放とうと、突飛な行動へ て『トムは真夜中の庭で』が登場す 感情をうまく表現できたと思う。 ね、伸びやかな表現を目指した。結果 スケートで川を下っていくシーンを重 る。さらに最終盤、凜は痒みに悶えな トピーに悩む主人公凜の愛読書とし ムは真夜中の庭で遊ぶことを、

と似ている。私は一九五八年に英国で るが、実際は庭を通じて過去と未来の 人間と心を通わせる。その行為は読書

だが高校時代は新聞配達に部活動と

佐藤 厚志 さとう あつし

©新潮社

小説家。1982年、仙台市生まれ。東北学院大 学文学部英文学科卒業。書店に勤務する傍ら 小説の執筆を続け、2017年、「蛇沼」で第49回 新潮新人賞を受賞。2020年、「境界の円居(ま どい)」で第3回仙台短編文学賞大賞を受賞。 2021年には、雑誌「新潮」4月号に掲載された「象 の皮膚」が第34回三島由紀夫賞候補となった。 同作は単行本として新潮社から刊行されている。 仙台市在住。

作家は物語を語り、 代の、知らない土地の、知らない人物 書かれたこの本を読んで、知らない時 力と深い共感を持って受けとめる。 相互にイメージを交換し合う高度なコ 本を通じて作者と読者が時空を超えて に思いを馳せて心を動かした。読書は ミュニケー ションと言えないだろうか。 読者はそれを想像

版画:明才

だろう。とはいえ、 無理である。我々は本を読んで想像力 空を越えた交流はいくらデジタルでも クトリア朝時代の風景を、トムが見た で楽しめるそうだ。ということはヴィ 使って四百年前の景色をパノラマ画像 ように再現することも技術的には可能 ところで仙台城ではVRスコープを トムとハティの時

それが読書の醍醐味でもある。

顔を合わせての交流がかけがえのない 発して壁をつき破り、じぶんをほんと 胸のなかでふくれあがり、部屋のなか 下っていったように。「トムは、自由 対峙しなければいけない。 ムのそんな呟きが思い出される。 かと思った。」感染症の拡大で実際に うに自由にしてくれるのではあるまい で大きくふくれあがり、 になりたいというじぶんのあこがれが われて安全な庭を出てスケ ものだと痛感せられる今、隔離中のト しも本の世界を離れて現実世界と常に 本は癒やしだと書いたが、結局は誰 しまいには爆 ハティが囲 トで川を

私の初めての単行本『象の皮膚』 フィリパ・ピアス作 高杉一郎訳 『トムは 真夜中の庭で』 (2000年 岩波書店)

(新潮社) では、書店員であり、

に通ったイ

を始める。途中

いわば隔離生活

の家に預けられ、 かのせいで親戚 トムは弟のはし

物語の冒頭、



2 3 仙台文学館ニュース

をフルに働かせて体験するしかない。

ていたということが大きい。

ンサムで頭がよく、

月にまつわるエッセイ」入賞作品決定

城の月」が発表されて一二〇年、また晩翠生誕一五〇年の節目の年でし つわるエッセイ作品を募集しました。 た。それを記念し、仙台市・仙台文学館では、みなさまから「月」にま 昨年二〇二一年は、仙台出身の詩人・土井晩翠の作詩による名曲「荒

優秀賞二作品が決定しました。 られ、当館館長・佐伯一麦による選考の結果、 同年七月から九月までの募集期間内に全国から二〇六編の作品が寄せ 十二月、 最優秀賞一作品、

最優秀賞

「26番目の月」(「有明の月 (26番目の月)」を改題)

木野田博彦(きのだひろひこ) 63歳 埼玉県さいたま市在住

優秀賞

「タマちゃんと満月」

中村優子(なかむらゆうこ) 48 歳 宮城県仙台市在住

優秀賞

「武蔵野」

五十嵐 真紀 (いがらしまき) 48 歳 宮城県仙台市在住

※入賞作品全文は仙台文学館のホームページに掲載しています。

木野田博彦さんのコメント

最優秀賞を受賞した

ざいました。 謝の気持ちを伝えたいです。改め が、変わらず優しく光る月にも感 は移り寒さ厳しい冬となりました 応募させていただきました。季節 に挑戦したいと思い、エッセイを れた東京オリンピックの終盤、ア 知ったのは、 月にまつわるエッセイの募集を ましてこの度は誠にありがとうご スリートたちの活躍に心奪われて き大変光栄に思っています。今回 いた頃でした。自分としても何か この度はすばらしい賞をいただ コロナ禍の中開催さ

○募集内容: 「月」をテーマにした日本語で書かれたエッセイ ○応募資格: 高校生(これに相当する方を含む)以上

○応募規定:字数 1200 字以内 (400 字詰原稿用紙 3 枚以内)。

○応募期間: 2021 年 7 月 1 日 (木) ~ 9 月 30 日 (木) 必着

○賞:最優秀賞1作品(賞状、副賞図書カード1万円、記念品)

主催=仙台市、仙台文学館(公益財団法人仙台市市民文化事業団)

優秀賞 2作品(賞状、副賞 図書カード5千円、記念品)

○選考委員:佐伯一麦(作家・仙台文学館館長)

1人1編、オリジナルで未発表のものに限る。



作品募集概要



最優秀賞受賞作品

「26番目の月」 木野田博彦

座を眺めたり、中でも東の空に三日月とは逆向き そしてその習慣が未だに抜け切らずにいる。 机に向かって丸付けをしたり、教材の準備をして 時から不眠症に陥り、 まい心和んでくる。 の26番目の月を見つけた時は、思わず見入ってし での一時は、今も私にとっては大切な時間となっ し日中の騒がしさとは対照的に、静かな明け方ま から出勤するというのが日課となってしまった。 3年前まで小学校の教員をしていた私は、 明け方前ベランダに出て夜空の星々や星 夜中の3時には目を覚まし しか ある

気管を切開し、

チュウブで直接酸素を送り込まな

生活を送ることとなった。呼吸困難になった父は

ちょっとした風邪が原因で肺炎を併発し入院

え尽きる前の微かな心臓の鼓動、呼吸にも似てい にも似ている。人の一生に例えるならば、命が燃 それは間もなく消えゆく蝋燭の炎の最後の煌めき は嬉しさよりも、儚さ、寂しさというものを感じる。 でも月の学習には自分なりに工夫してきた。だか に亡くなった、父の最後の姿とも重なってくる。 ら月を見つけると嬉しくなる。しかし26番目の月 教員時代は高学年の理科を教えることが多く、中 切ない気持ちにもなる。そしてそれは20年前

ければ、帰り際、

病院の屋上に立ち寄って月を眺

を見つめるばかりの日が続いた。そして天気が良 ズムの機械音を聞き、心臓の拍動を示す波動曲線 さぬ父の顔を見つめ、

酸素が送り込まれる一定リ

私が教員になったのは、父が小学校の教員をし 多才で、意志の強い人であっ ただ父は私と違いハ 書き残した文章が見つかった。そこには体の弱い 自分がまさか3人も子供を持つことができるとは しばらくして父の遺品を整理していた際、父が

のようであった。

うど夜明けの光で消えてゆく東の空の26番目

な願いも届かず、父は静かに旅立っていった。ちょ こしてくれるような気がしたからだ。しかしそん めるようになっていた。月の神秘な光は奇跡を起 ていない状態で日常生活を送っていた。そのため しかし若い頃に肺を患い、片方の肺が機能し

両手を合わせた。 でも優しく輝いていた。私は父のことを思い出し、 放ってくれている。そして明け方久しぶりに26番 未だコロナの終息を見ない中、 の月「有明の月」を見た。 有明の月は微かに、 月は美しい光を

2021年1月下旬から3月下旬まで、「月にまつ わるエッセイ」入賞作品 3 編のパネル展示を仙 台文学館と晩翠草堂で開催しました。



文学館での展示の様子



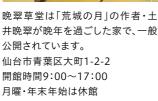
その後半年間、

目を覚ますことなく寝たきりと

食事を喉に詰まらせたことで意識をなくした父は、 それでも半年間は辛うじて会話ができた。しかし ければ生命を維持できない状態となってしまい、

なってしまった。私は心配で毎日仕事を早めに終

え、病院に駆け付けた。奇跡を信じて、目を覚ま



公開されています。

晩翠草堂は「荒城の月」の作者・土 井晩翠が晩年を過ごした家で、一般 仙台市青葉区大町1-2-2 開館時間9:00~17:00 月曜・年末年始は休館

あふれてきた。 が綴られている文章だった。私はあらためて涙が 思わなかった。とても幸せを感じる。ということ



少年時代からの憧れの地であった、中国・楼蘭のストゥーパの前で(1988年)

予告

する文学館 台 2022

に送り出してきました。 四○年以上にわたり約三○○冊にのぼる著書を世 『さらば国分寺書店のオババ』でデビューして以来、 作家の椎名誠さんは、 一九七九年にエッセイ集

ーマにした作品群は椎名さ 少年時代に探検記

ファンがいます。

んの代名詞ともなっています。 なかでも「旅」をテ

などを通して、

現在、旅心を大いに刺激する椎名ワー ド。この展示が、 ガイドとなることを願って みなさんの来たる旅の ル



旅にまつわる品々 上:楼蘭探検の際に使用した万能食器 下:インドで入手した リクシャ(人力車)のラッパ

椎名誠

文体で綴った著作には、 その風土や人々の暮らしを体当た なってから国内外各地に足を運び を愛読した椎名さんは、作家と りで取材。それらの体験を独自の 多くの

旅の醍醐味をお伝えします。また、 の軌跡をたどりながら、 入れた品々や自身が撮影した写真 今回の展示では、 椎名作品の魅力と 椎名さんの旅 旅で手に

若い頃に制作した雑誌、取材ノー れる資料を公開します。 トなど、作家の息づかいが感じら 自由な移動がいまだ困難な状況にある

旅の取材ノート

1944年、東京都生まれ。会社員を経て作家とな

り、独自の文体によるエッセイや国内外の旅行

記、私小説・SF 小説など幅広いジャンルの作品

で人気を博す。1988年『犬の系譜』で吉川英治

文学新人賞、1990年『アド・バード』で日本

SF 大賞受賞。写真家、映画監督としても活躍。

https://www.shiina-tabi-bungakukan.com/

「椎名誠 旅する文学館」ウェブサイト

世界各地を

歩き回った愛用の靴

特別展「椎名誠 旅する文学館 in 仙台2022」

期=2022年4月23日(土)~6月26日(日) 休館日:毎週月曜日、4月28日(木)、5月6日(金)、 5月26日(木)、6月23日(木)

開館時間=9:00~17:00 (展示室への入場は16:30まで)

場=仙台文学館 企画展示室

観 覧 料=一般810円、高校生460円、小・中学生230円(各種割引あり)

【おことわり】

新型コロナウイルス感染症の状況により、展示の予 定・内容が変更になる場合があります。 変更が生じた場合は、当館ホームページ、SNS等で お知らせする予定です。

【ご来館のみなさまへのお願い】

○体調がすぐれない場合はご来館をお控えください。

○館内ではマスクの着用をお願いします。

○ご入館の際、サーマルカメラでの検温、手洗い、手指の消毒にご協力ください。

○会場の三密(密閉・密集・密接)を避けるため、入場制限をさせていただく場合があります。

体的に踏み込んで書いて 感じざるを得なかった。 代の夏目漱石が「I love you」を「月がきれいです 月の思い出や、 なりなどが気になったが、 ね」と訳したというエピソ 今東西、死と再生の象徴とされてきた。 る。また、月齢によってその姿を変える様は、 についての観察や描写、 り、「その日は満月だった」と書かれるだけで、 いくつかあった。出来事の切実さは強く伝わって いて書かれたものだった。それから、 最優秀賞の「26番目の月」は、 月にまつわる人生上の一大事が描かれた作品も 応募作の中で多かった内容は、子供の頃に見た 月は四季を通して私たちの生活と密接な関わり マのエッセイとしては、 興を惹かれた。 月の光がイメージにとどまって 月にまつわる身内や友人の死につ 名月など秋を代表する景物であ 考察がないものは、月が いる点を高く評価し もっとも月について具 ードにまつわる話が数 やや物足りない、 文章の語句の重 英語教師時

> 月の二十六日の夜には、 勢至の三尊が現れると言い伝えられ、月の出るの は二十六夜待ちという風習があり、 は、深く感じ入らされた。ちなみに、 番目の月を、父の最後の姿に重ね合わせる想念に を待って拝むことが盛んに行われたという。 優秀賞の「タマちゃんと満月」は、子育てにま 月光の中に弥陀・観音 陰暦正月と七 江戸時代に

古

どの白く丸い月が冴え冴えと光っていた〉 満月が持っている不思議な力、 マちゃんという存在そのものの発想が面白く、 つわる月の話。 の後の病気の因縁など、おばちゃんとの出来事を なおばちゃんとの薄とりを母が断ったことと、そ チーフにした、武蔵野 ちに及ぼす作用を、子供も感じ取っているのだろう。 章もヴィヴィッドだった。狼男などでも知られる になった時はタマちゃんがくるんだよ〉 十五夜の月が、〈天高くに小さく、 れた、 っかけとして他者への想像力が働いてい もう一つの優秀賞の「武蔵野」は、 実家の隣に住んでいた〝第二の母〟のよう 真夜中になって雲間から覗いた今年の お月見の薄とりを巡る思い出が描かれて かりと描写されている。 幼稚園児の息子が言い出す〈我儘 という着物の柄から想起 人間や生きものた そして眩しいほ 月と薄をモ という、 た。 文

いた 月

におねしょの思い出が蘇る「お月さまは知ってい に助けられた出来事を描いた「月夜の散歩」、 のような道を駆ける「月に鳴く虫」、 はほかにも多かった。 惜しくも受賞には洩れたが、印象に残った作品 月に白く照らされた滑走路 山で月 満月

Sendai

Literature

Museum News

科を教えていたという職業柄、科学的にも月を捉

〈ちょうど夜明けの光で消えてゆく〉

て有明の月を見ていたり、

小学校の教員として理

や観察を通してよく描かれていた。 の空に浮かぶ二十六夜の月のことが、

不眠症にかかっ

作者の体験

三日月と反対側が光り、

新月へと細っていく、

土井晩翠 (1871~1952) 仙台市出身。 詩人·英文学者。

晩翠直筆 「荒城の月」の

について語った中学校の国語教師を端正な文章で が鮮やかな「お月さん、電気ついてる」、ゲ は月よりの使者」、母との意外性のあるエピソ 「月の帳面」、月にまつわる数奇な運命を描いた る」、産婆さんだったばあちゃんの姿が印象的な 「月の光」など……。

祖父との月を巡るやりとりを掌篇小説風に綴った を変えて」、太宰の短篇の一節に出てくる月に目を 「ありあけのつき」、 また、若い世代からの応募作では、幼稚園児と 月への考察に独自性のある「形

綴った

とめた「潜む怠惰」を興味深く読んだ。 これからも、月を友として暮らしていただけ

「春高楼の花の宴 めぐる盃かげさして」の 歌詞で知られる唱歌「荒城の月」は、1901 (明治34)年、東京音楽学校(現在の東京藝 術大学)が中学校用の教科書として編集・発 行した『中学唱歌』に初めて登場しました。

以来、晩翠による格調高 い言葉の響きと、滝廉太 郎作曲の情感あふれるメ ロディーによって、「日 本の歌」を代表する一曲 として親しまれています。

7 仙台文学館ニュース



①宮城県内で撮影された「護られな かった者たちへ」。中山七里さん原作 の社会派ミステリーであり、数々の映 画賞に輝いた作品に関わることができ たことは、良い記念となりました。



③目撃されたキツネたち(写真提供:カ フェひざしの杜)。北根の森の豊かさ を実感します。

②当館では2008年、特別展「瀬戸内寂 聴展~生きることは愛すること」を開 催。会期中に実施した寂聴先生ご本人 による「ミニ説法」は、当館イベント史 上最多の観客動員数を記録しました。



④俳優の茅根利安さんによる朗読と、 橘寿好さんによるお琴の演奏で、土井 晩翠の詩の世界をたっぷりと味わって いただきました。

12月	18~	仙台市内のミュージアムによる展示・体験の
	26日	催し「ミュージアムユニバース」(会場:せんだ
		いメディアテーク)に出展。
	23日	2階正面玄関前に毎年恒例の「伝統門松」が
		設置され、お客様をお出迎え(2月13日まで)。
1月	5日	常設展示室特集展示コーナーにて、土井八枝
		(土井晩翠夫人)を紹介。
	10日	20回目となる「100万人の年賀状展」開幕(2
		月13日まで)。
	12日	館内のカフェ「ひざしの杜」のテラスでキツネ
		2頭を目撃。〈写真③〉
	15日	企画展「高山樗牛と土井晩翠『瞑想の松』物
		語」、同時開催展「怪談作家・杉村顕道 その生
		涯と交友」オープン(3月21日まで)。
	18日	「月にまつわるエッセイ」入賞作品を当館ホー
		ムページ上で発表。その後、入賞作品パネル
		展を当館および晩翠草堂で開催(3月末まで)。
2月	4日	敷地内で再びキツネが目撃される。
	11日	企画展「高山樗牛と土井晩翠『瞑想の松』物
		語」の関連イベント 朗読と音楽の調べ「土井
		晩翠作品を味わう」開催。〈写真④〉

2021年8月~2022年2月

8月	1日	「こども文学館えほんのひろば みちのく妖
		怪ツアー展」関連イベントとして、佐々木ひと
		みさん、野泉マヤさん、堀米薫さんによる鼎談
		「東北妖怪談義」を開催。
	7日	同じく「みちのく妖怪ツアー展」関連イベント
		として、「北根の森の草木であそぼう」を開催。
	22日	「みちのく妖怪ツアー展」会期終了。
	30日	新型コロナウイルス感染症に関し、宮城県独
		自の緊急事態宣言発出により臨時休館となる
		(9月13日まで)。
9月	14日	宮城県独自の緊急事態宣言がまん延防止等
		重点措置に移行したのに伴い開館。
	18日	特別展「『ぼのぼの』連載35周年記念 ぼのぼ
		のたちの杜」オープン(11月28日まで)。
	20日	館長の佐伯一麦がホストを務めるトークイベ
		ント「北根ダイアローグ」開催(ゲスト:いがら
		しみきお)。
10月	1日	当館がロケ地となった映画「護られなかった
		者たちへ」劇場公開。それを記念し、館内でロ
		ケ地パネル展を開催(11月末まで)。〈写真①〉
	9日	仙台市内の7つのミュージアムを巡る「歴ネッ
		トクイズラリー」が始まる(1月30日まで)。
	17日	小・中学生の詩作品を対象にした第62回「晩
		翠わかば賞・晩翠あおば賞」の贈呈式を挙行。
11月	9~11日、	仙台市内の中学校2校の生徒が当館で職場
	16~18日	体験を実施。
	12日	11月9日に亡くなった作家・瀬戸内寂聴さん
		の追悼コーナーを設置。〈写真②〉
	19日	土井晩翠生誕150年、「荒城の月」発表120年
		を記念して制作した動画「うちでうたおう荒
		城の月」の配信を開始(仙台市公式YouTube
		チャンネル「せんだいTube」にて)。
12月	2日	仙台で初雪を観測。今冬は雪が多く、この日
		以後何度か敷地の雪かきを実施することに。



交通のごあんない

■バス利用の場合

〈宮城交通バス〉

○仙台駅西口バスプール2~4番乗り場 仙台北·泉地区方面行 (北山トンネル経由を除く)

〈市営バス〉

○仙台駅西口バスプール4番乗り場 八乙女駅行 ※いずれも「北根二丁目・文学館前」下車

■地下鉄利用の場合

地下鉄南北線「台原駅 | 下車、 南1番出口より徒歩約25分 (台原森林公園内あかまつの道経由) ※山道です。雨天時は道が滑りやすく なりますので、ご注意ください。

23日まで)。

■駐車場40台(無料)

台数に限りがございます。なるべく 公共交通機関をご利用ください。



カフェ ひざしの杜

仙台市名誉市民の洋画家・杉村惇の作品展 「海の韻律」を3階企画展示室で開催(12月

> お食事、デザート、各種お飲み物などを ご用意しています。 お得なランチメニューもあります♪ [営業時間] 10:00~16:00 (ラストオーダー15:50) ※ランチは10:00~14:00 TEL 022-219-1341

仙台 文学館

第四十二号

ニュース



公益財団法人 仙台市市民文化事業団

仙台文学館

〒 981-0902 仙台市青葉区北根 2-7-1 TEL 022-271-3020 FAX 022-271-3044

https://www.sendai-lit.jp/





「仙台文学館ニュース」の バックナンバーを 掲載しています。

